

大阪府立図書館 アクション・プラン 平成24年度

評価分類
A: 経年比 B: 数値目標到達 C: 目標達成(成果物発行等)

①大阪府立図書館は、市町村立図書館を支え、大阪府全域の図書館サービスを発展させます。

府民が最も利用しやすいのは身近な市町村立図書館(未設置市町村においては、公民館図書室等同等施設を含む。以下同じ。)ですが、現在の多様化した情報ニーズに一つの図書館だけでこたえることはできません。これをカバーするのが府立図書館を中核とする府域図書館ネットワークです。府立図書館は、市町村立図書館への資料配送とともに、図書館サービスを支える「人」の育成と連携、サービス向上のための「情報」の共有と活用を通じて市町村立図書館を支援し、府域図書館ネットワークの拡充を図ります。あわせて、国立国会図書館や大学図書館、類縁機関など、館種を超えたつながりを強めます。

		重点目標	活動内容	工程表			区分	活動指標			参照指標	
				H22年度	H23年度	H24年度		指標名	評価分類	目標値	指標名	
1-1	1-1-1	市町村立図書館に関する情報の収集と提供を行い、図書館間相互のさらなる連携・協力を進めます。	相互協力に関する連絡会等を実施し、情報交換と交流を図ります	協力担当者連絡会の開催		→	継続	実施回数	B	年2回	参加団体数	参加者満足度
	1-1-2		府内市町村立図書館メーリングリスト(ML)や協力ポータルサイトの運営を通じて、情報の有効活用を促進します	アンケート結果集約・掲載		→	継続	MLアンケート結果の集約・ポータル掲載	C		アクセス数	ML発信数
	1-1-3		市町村実態アンケート等を通じて、情報の収集と取りまとめを行います	随時実施		→	継続	アンケートの実施	C			
	1-1-4		協力車による巡回相談等を行い、市町村立図書館等の運営を支援します	巡回相談		→	継続	実施箇所数	B	のべ50箇所	相談件数	
1-2	1-2-1	市町村立図書館・府立の学校図書館への協力貸出を促進するとともに、市町村立図書館相互の資料物流を支援します。	府立高校への協力貸出の試行を拡充しながら、サービスのあり方を検討します			→	継続	対象校数	A		協力貸出冊数(高校)	
	1-2-2		協力車を活用して市町村立図書館間の資料物流を行うと同時に、資料相互貸借の一層の円滑化を図ります	「協力貸出資料の範囲」更新		→	継続	ポータルサイト「協力貸出の範囲」の更新	C		協力車による市町村間物流冊数	
	1-2-3		協力貸出のニーズを把握し、貸出対象範囲の再検討を行います		ニーズ把握	→検討	新規	検討報告の作成	C		協力貸出冊数(市町村)	
1-3	1-3-1	府域図書館職員のスキルの向上を図り、職員間のつながりの場を提供します。	図書館運営・サービス展開に役立つスキルアップのための講座(司書セミナー等)を実施します	司書セミナーの開催		→	継続	実施回数	B	年1回(連続講座)	参加者満足度	参加人数(のべ)
	1-3-2		スキルアップのための実務研修(OLA参考業務研修等)を行い、参加者の交流の場をつくります	OLA参考業務研修の開催		→	継続	実施回数	B	年1回	参加者満足度	参加人数(のべ)
1-4	1-4-1	大阪公共図書館協会(OLA)、近畿公共図書館協議会(近公図)等の場を活用して府内図書館活動を推進し、学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館、類縁機関その他の社会教育機関・施設や行政機関等との連携・協力を広げます。	OLA・近公図への運営協力や、図書館相互の連携協力を推進します			→	継続	OLA事務局業務 近公図事務局業務	C C			
	1-4-2		府内図書館総合目録(横断検索)や類縁機関案内を通じて、情報ネットワークに貢献します	HP「類縁機関案内」の更新(年1回)		→	継続	類縁機関案内更新	C		横断検索回数	
	1-4-3		市町村立図書館の図書館協議会、関連機関への委員派遣等を通じて、連携・協力を進めます			→	継続	派遣団体数(延べ人数)	A			

②大阪府立図書館は、幅広い資料の収集・保存に努め、すべての府民が情報・知識に到達できるようサポートします。

情報化、高齢化が急速に進展する中、府民の情報ニーズはますます多様かつ高度になっています。また、若者と高齢者、障がいの有無、所得等により情報格差が生まれているともいわれています。

府立図書館は、市町村立図書館等と役割分担をしながら、府民の誰もが、必要とする「知識」「情報」にたどり着けるような環境整備と機会の充実に努めます。その基盤として、資料収集方針のもと、幅広い分野の中から重点的に資料・情報を収集し、確実に保存することで、蔵書の一層の充実を図るとともに、利用者のニーズにあった提供を行うために多様なアクセスの確保を進めます。

		重点目標	活動内容	工程表			区分	活動指標			参照指標	
				H22年度	H23年度	H24年度		指標名	評価分類	目標値	指標名	
2-1	2-1-1	市町村立図書館や国立国会図書館との役割の違いを考慮しつつ、現在のニーズだけでなく将来の利用を見据えた資料収集・蔵書構築を行います。	電子書籍の取扱い等、将来の多様なニーズを想定した収集のあり方を検討します		情報収集(研修参加等)	→ 検討報告	新規	検討報告の作成	C		蔵書満足度	
	2-1-2		公平性・透明性を確保し、質的水準を保ちつつ、より効率的で効果的な資料収集方法を検討し、運用の安定化を図ります	入札検討	入札内容精査	→ 安定化	新規	業者選定の公平性・透明性確保	C		一般図書新刊カバー率	歩引率の確保
	2-1-3		商業的に流通しない出版物(研究機関や公益法人等が発行する非売資料等)についても、出版情報を調査し、積極的に収集します	寄贈依頼の継続実施		→	継続	寄贈依頼件数	A		寄贈受入数	
2-2	2-2-1	大阪府域における「資料の保存図書館」としての役割をはたすため、資料収蔵能力確保に努めるとともに、資料が利用できる環境を整えます。	資料保存基準の明確化をはじめ、書庫の有効利用と将来に向けた検討を行います	実態調査	保存基準の明確化	→ 書庫計画の策定	新規	保存基準の策定	C			
	2-2-2		貴重資料・古典籍等の計画的なマイクロ化・デジタル化、劣化資料についての対策を検討します	マイクロ化・デジタル化	マイクロ化・デジタル化対象資料のタイトル・数量把握	→ 計画策定	継続	マイクロ化・デジタル化計画の策定	C			
								デジタル化資料の公開	C			
								マイクロ・デジタル画像作成数	B	年約20000コマ		
								複写要領の見直し他館状況把握	C			
2-3	2-3-1	図書館資料と検索技術に精通した職員(司書)の専門性を生かし、レファレンスや資料提供サービスを充実させます。	レファレンスサービス充実のためのプランを策定し、計画的に実施します	プラン検討・策定	→ 実施・検証	→	新規	プランの策定・実施・評価	C			
	2-3-2		テーマ別の資料案内やパスファインダー、資料展示、ニュースレファレンス等、積極的に資料と情報提供の取組みを進めます。	資料案内等作成・更新 ホームページ掲載・更新		→	継続	資料案内作成数 パスファインダー作成数	A		資料案内・パスファインダー・展示リスト・レファレンスリーフレット等配布数	
								資料展示回数	A			
								レファレンス事例データベース新規掲載件数	A			
								HP新規掲載数 HP更新回数	A		アクセス数	
								メールマガジン等による情報発信	A			
											個人貸出冊数 書庫出納冊数 複写枚数	
	2-3-3		「政策立案支援サービス」の満足度調査を実施し、さらなるサービス向上を図ります	継続実施	→ 満足度調査	→ ニーズ反映検討	継続	広報実施回数	B	月2回	受付件数	
								Pサポートポータルサイトでの情報発信回数	B	年3回	利用者満足度	

2-4	2-4-1	図書館利用に障がいのある人へのサービスを充実させ、すべての府民の情報アクセスの確保を進めます。	通常の活字による読書が困難な人に役立つよう、DAISY・大活字本等の収集に努め、平成22年1月施行の著作権法改正を踏まえた利用促進への取組みを進めます	DAISY所蔵目録をホームページに掲載(墨字版・点字版を掲載)	「点字・録音図書新刊案内」(近畿視情協発行)の提供 DAISY所蔵目録の墨字・点字・録音版の提供	→	継続	DAISYの受入タイトル数 大活字本リストの作成 新規 「点字・録音図書新刊案内」の提供	A B C	年1回 毎月実施	大活字本受入点数 マルチメディア DAISY受入比率
	2-4-2		(墨字・点字・録音図書)郵送貸出サービスおよび対面朗読を実施し、その充実を図ります	利用案内(点字・墨字・大活字・カセット)等の作成 「墨字図書新着図書案内」の作成(年4回) ホームページによる広		→	継続	利用案内等の作成 「墨字図書新着図書案内」の作成	B B	年1回 年4回	郵送貸出タイトル数 対面朗読利用者数 対面朗読における専門書比率
	2-4-3		視覚障がい者向けおよび盲ろう者向けの講習会・パソコン利用指導を実施し、成果をさらなるサービスに活かします			→	継続	実施回数	B	年4コース	利用指導回数 利用者満足度
	2-4-4		肢体障がい、聴覚障がい等さまざまな障がいのある人への図書館サービスの取組みを進めるとともに、障がいのある人への理解を深める取組みを行います	手話写真入り 利用案内の作成	手話ブック改訂	聴覚障がい者向け講習会の開催	継続 新規 新規 継続	手話通訳の保障 手話写真入り利用案内の作成 手話ブックの改訂 聴覚障がい者向け講習会 HP更新回数	C C C B A	年1回	講演会、イベント等における手話通訳への満足度 アクセス数
	2-4-5		国立国会図書館、近畿視情協等関連機関と連携して、市町村立図書館における障がい者サービスを支援します		市町村立図書館との情報交換会の実施に向けた検討	情報交換会の実施	新規	情報交換会の実施	C		
2-5	2-5-1	ビジネス活動を支援するサービスを充実します。	ビジネス活動に役立つ資料を収集し、提供します	寄贈資料の充実		→	継続	寄贈依頼件数	A		寄贈点数 寄贈業界新聞推定年間購読料
				各種目録・調査ガイド 充実		→	継続	各種目録の年間改訂回数 調査ガイドの年間改訂回数	B B	年4回 年10回	メールマガジン登録者数 調査ガイド配布数 調査ガイドHPアクセス数
	2-5-2		ビジネスセミナー等を実施し、最新のビジネス情報を提供します	セミナー実施		→	継続	実施回数	B	年3回	申込人数 参加者満足度
	2-5-3		ビジネスサポートフェアの開催等を通し、ビジネス支援機関と連携を進めます		ビジネスサポートフェアの開催	→	継続	共催事業・講演会数	B	年2回	申込人数
2-6	2-6-1	来館することなく利用できる遠隔サービスの利便性の向上を図ります。	個人向けe-レファレンスを本格実施し、サービスの拡充を図ります	試行・本格実施	→ 満足度調査	→ ニーズ分析	新規	期限内回答率	B	100%	利用者満足度 受付件数
	2-6-2		Web複写サービスの利用を促進します		運用検討	→ 実施	継続	資料紹介/記事更新頻度 広報実施回数	B B	年6回	受付件数
2-7	2-7-1	デジタル情報技術の進展に合わせて環境整備を進めます。	図書館情報システムのあり方について新しい技術や読書環境を含めて情報を収集し、児文館システムも含め、図書館情報システム構築について検討します	児文館システム検討	→ リプレイス	→ 安定化	新規	リプレイスの実施	C C		
	2-7-2		無線LANが利用できるデジタル情報環境の整備を行います	試行・本格実施	→ 利用分析・検証	→	新規	次期システムに向けた検討報告書 サービス提供時間	B	開館時間中100%	利用数 利用者満足度(来館者アンケート項目)

③大阪府立図書館は、府域の子どもが豊かに育つ読書環境づくりを進めます。

府立図書館は、子どもたちへの直接サービスの実践をもとに、市町村立図書館等関係機関と連携・協力しつづ、子どもたちへの図書館サービスに取り組んできました。また平成22年には、府立国際児童文学館から、約70万点の資料と機能を受け継ぎました。今後は「子どもの読書支援センター」および「児童文化の総合資料センター」として資料・情報を収集し、実践的な取組みによるノウハウを蓄積し、市町村立図書館等とともに府域における子ども読書活動をより推進するとともに、児童文化の向上に努めます。

重点目標		活動内容	工程表			区分	活動指標			参照指標
			H22年度	H23年度	H24年度		指標名	評価分類	目標値	指標名
3-1	3-1-1	乳幼児、児童およびYA(ヤングアダルト)、障がいのある子どもなど、すべての子どもの読書やサービスに関する情報の収集と発信を行います。	子どもにすすめる本のリスト「ほんだな」、情報提供誌「はらっぱ」等で役立つ情報を提供します	冊子発行、HP掲載アンケート実施 こども資料室と国際児童文学館の連携による合同選書会議の実施(月1回)		継続	継続発行	C		アクセス数
	3-1-2	YA向けホームページ「YA! YA! YA! べんりやん図書館」の職員ブログやWeb版「ヤングアダルトYAYAYAのページ」を充実します				新規	関係機関への配布 検討冊数	C B	年1,500冊	
3-2	3-2-1	すべての子どもに対するサービスを推進し、取組結果を子ども読書活動の推進に活かします。	乳幼児と保護者が一緒に楽しめるおはなし会を実施し、実施記録(取組成果)を公開します	継続実施 実施記録の整理	公開に向け検討 HPで公開	継続 新規	実施回数 HP上での取組公開	B C	年22回	
	3-2-2		点字教室やたのしい手話等、障がいに対する理解を深めるための事業を推進します	事業実施	参加状況把握	継続	実施回数	A		参加人数
	3-2-3		視覚障がい児のためのわんぱく文庫と連携・協力して、点字目録のホームページ上での情報発信、共催行事等障がいに対する理解を深めるための事業を推進します			継続	目録更新	B	年1回	共催事業数
	3-2-4		外国語の絵本や児童書を継続収集し、外国語の絵本を取り入れたおはなし会等での活用を図ります		おはなし会で活用	継続 新規	累積収集点数 実施回数	A B		
	3-2-5		中高校生を対象とした「本のPOPひろば」等、本に親しむ事業を実施します	継続実施	実施状況分析	継続	継続実施	C		応募作品数 応募校数
	3-3-1	学校のニーズ把握を行い、学校支援サービスを展開します。	スクールサービスデイ、見学・体験学習・インターンシップ等を通じて、図書館活用の普及・啓発を促進します	各事業ごとに結果検証		継続	府立学校への広報の実施 図書館紹介広報資料の作成	B C	年1回	実施日数 参加人数
	3-3-2	学校支援のホームページを拡充します	サイト開設	コンテンツ充実		新規	サイト開設 HP更新回数	C A		アクセス数
3-3	3-3-3	調べ学習や朝の読書等に役立つ特別貸出用図書セット、展示用セットの拡充をはかるとともに、活用事例を収集します。	開始		セット数拡充 活用事例収集 活用事例作成	新規	事業開始 活用事例集作成	C C		申込数
	3-3-4	教員の教材開発を支援するための研修を、教育センターを協力して実施します	毎年夏休みに実施	参加者満足度把握		継続	継続実施	C		参加人数
							「教材開発のための図書館活用ガイド」(冊子版)の更新	C		参加者満足度
	3-3-5	府立支援学校へのおはなし会等を通じて、ニーズ把握とサービスの向上に努めます	毎年ニーズ把握・検証			継続	参加者の興味に適したお話会の実施	C		実施回数

3-4	3-4-1	市町村立図書館と連携し、児童およびYAIに対するサービスに携わる人材(市町村立図書館職員、学校および学校図書館の司書、司書教諭、ボランティア等)の育成と交流を進めます。	府内市町村立図書館児童サービス担当者連絡会、OLAの児童サービス実務研修等を実施します	毎年ニーズ把握・検証		→	継続	実施回数	B	年3回	参加人数 参加者満足度	
	3-4-2		子どもの読書に関わる研修会へ講師・司書を派遣します	開始	→ ニーズ把握・分析 → リニューアル実施 → 継続方法検討	新規	派遣回数	B	年75回	派遣先団体数 参加者満足度		
	3-4-3		市町村立図書館による学校との連携事例を収集するとともに、市町村立図書館職員と学校図書館関係者等を対象とした合同研修を実施します	開始	→ 毎年ニーズ把握・分析	新規	実施回数	B	年1回	申込人数 参加者満足度		
	3-4-4		高校図書館協力貸出(試行)の担当者情報交換会を実施します			→	継続	実施回数	B	年1回	参加団体数	
3-5	3-5-1	国際児童文学館機能の充実に向け、資料の収集・整備・活用を図ります。	財団法人大阪国際児童文学館と連携・協力して、新刊児童書の網羅的収集を図るとともに、過去に発行された児童文化関連資料についても、可能な限り収集します	過去に発行された資料の収集方法の検討		→	新規	新規受入冊数	A			
						→	新規	新収古書一覧作成	C		寄贈点数	
	3-5-2			専門的な利用に応える整理方法を継承し、資料整理マニュアルを作成・整備するとともに、引継資料の整備を進めます	整理方法検討	→ マニュアル作成	→ 整備	新規	整理マニュアルの作成	C		
				方針検討	→ 点検遂行	→ 整備状況報告	新規	点検冊数 結果報告	A C			
						→ 資料保護カバー装着等の整備の実施	新規	整備完了冊数	B	22万冊		
	3-5-3			資料利用の利便性、ホームページでの情報提供等、利活用に向けて検討し、広報活動を実施します	運営方針策定 利活用の検討		→	新規	運営方針の策定 利活用策の策定	C C		展示貸出件数 出版掲載件数 取材協力件数
			利活用に向けて 広報		→	新規	広報実施回数	B	年2回			
3-6	3-6-1	豊富な資料と児童サービスにおける専門性を生かして各種事業を行うとともに、外部機関との連携を強化します。	国際児童文学館における新刊紹介講座、資料展示とギャラリートーク等、貴重で豊富な資料を活かした事業を展開し、利用を促進します	オープニングイベント等実施	1周年記念イベントの実施	→	新規	実施回数	B	年9回	参加人数 参加者満足度	
	3-6-2			大阪における子ども読書活動推進事業の拠点として、府内のさまざまな機関・団体と連携します	計画策定への協力	→ 事業推進の拠点としての働き	→	新規	第2次計画の策定への協力・計画に沿った実施	C		会議参加
							→	新規	データ提供	C		外部との会議出席
	3-6-3			国際子ども図書館等外部専門機関と連携・協力し、データ公開、相互利用を進めます	データ提供のためのシステム整備	データ提供方法検討・準備・提供		→	新規	データ提供	C	

④大阪府立図書館は、大阪の歴史と知の蓄積を確実に未来に伝えます。

古くから政治・経済・文化の中心地として栄えた大阪には、歴史的価値の高い資料が数多く残されています。こうした知の遺産を未来に伝えるため、府立図書館は、大阪に関する資料・情報を積極的に収集・保存します。市町村立図書館や、府民、企業等に広く理解、協力を呼びかけ、郷土の誇りとなるような共有財産とともに築き育んでいくとともに、さまざまな方法でこれを発信し、府民の郷土・大阪への理解、そして他府県、海外の人びとの大阪への理解を深めてもらうことをめざします。

		重点目標	活動内容	工程表			区分	活動指標			参照指標	
				H22年度	H23年度	H24年度		指標名	評価分類	目標値	指標名	
4-1	4-1-1	地域資料を積極的に収集するとともに、古典籍を充実します。	府内の行政機関や文化機関に対して働きかけ、寄贈資料の収集に努めます	寄贈資料の充実			継続	寄贈依頼件数	A		寄贈点数	
	4-1-2		古典籍はじめ未収集資料について、将来利用を見込んだ効果的な収集を行います	マニュアル策定に向けた検討	素案作成	マニュアル・ツール類の作成	新規	SSC情報掲載数	B	月1回		
4-2	4-2-1	地域資料および古典籍に関する情報を整理し、提供します。	大阪に関する調査事例を収集、蓄積し、レファレンス事例として公開します				継続	収集実務マニュアル作成	C			
	4-2-2		「大阪文献データベース」の充実を図ります	データ入力				未収資料検索ツール類の作成	C			
	4-2-3		大阪府の発行した資料について積極的に収集し、行政資料目録を発行します	継続発行				事例公開件数	B	年60件		
	4-2-4		データ化されていない所蔵資料（明治期刊行物等）の計画的な書誌データ作成を進めます	データ作成				レファレンス事例収集数	B	年2500件	DB収録数	
4-3	4-3-1	大阪の文化に関わる情報を発信し、大阪への理解を広げます。	地域資料・古典籍の特長を活かした展示会および講演会等を実施します	展示会等の開催			継続	DB入力数	B	年3,300冊	掲載書誌数	
	4-3-2		中高生が地域資料・古典籍に親しむための取り組みを実施します	ワークショップの開催			新規	継続発行	C		掲載書誌数	
4-4	4-4-1	地域資料および古典籍サービスにおける専門性を活かし、外部人材・機関とのネットワークを形成します。	市町村立図書館職員対象に、地域資料・古典籍資料に関する研修を実施します	研修会の開催			継続	1年の処理件数 計画全体の進捗率	B	約3,300冊		
	4-4-2		美術館・博物館等他機関への資料利用の利便性を図ります	事務処理の迅速化	内規の検討		継続	実施回数	B	年10回	参加人数	参加者満足度
	4-4-3		研究者等外部人材との協力事業を実施します	外部人材との協力事業の実施に向けた検討・実施			新規	実施回数	B	年1回	参加人数	参加者満足度
								府内中学・高校への 情報提供	B	年1回	参加人数	参加者満足度
								実施回数	B	年1回	参加人数	参加者満足度
								処理日数の短縮	A		展示貸出件数	出版掲載件数
								協力事業の実施	C			

⑤大阪府立図書館は、府民に開かれた図書館として、府民とともにあゆみます。

府立図書館は100年にわたり府民が大切に育ててきた大阪の「知のシンボル」です。この財産を生かし、資料・施設が最大限に活用されるようにするとともに、市場化テストの成果をふまえて、サービスの質の向上と業務の効率化、運営の透明化を図ります。生涯学習の拠点として府民により親しまれる図書館をめざします。

		重点目標	活動内容	工程表			区分	活動指標			参照指標	
				H22年度	H23年度	H24年度		指標名	評価分類	目標値	指標名	
5-1	5-1-1	府立図書館の役割や活動について理解を広げ、利用促進につながる情報発信を行います。	府立図書館ホームページ、メールマガジンを通じて、情報発信を拡充します			→	継続	HP更新回数	A		全HPアクセス数	
								メールマガジン配信回数	B	年48回	HPからの諸手続利用回数	
							新規	アクセシビリティ向上に向けた検討	C		メルマガ登録者数	
	5-1-2		建物・地下書庫見学ツアー等、図書館を紹介するイベントを実施します	建物・書庫等の見学会の実施		→	継続	実施回数	B	年12回	参加者満足度	
											参加人数	
	5-1-3		大学実習、教員・職業技術専門学校等からの実習生、各地からの視察・見学者の受入を通じて、府立図書館への理解を広げます			→	継続	図書館紹介広報資料の作成	C		実施日数	
											参加人数	
5-2	5-2-1	図書館運営やサービスに関わる情報公開を推進します。	府立図書館ホームページを通じ、利用者アンケート結果、図書館評価、図書館協議会情報等の館運営情報の公開を進めます	FAQ(よくある質問)、アンケート結果、協議会情報の掲載	レファレンス・トータルプランの掲載	→	継続	館運営情報のHP掲載	C			
5-3	5-3-1	図書館が持つ資料や施設を活用し、府民の生涯学習活動を支援するとともに地域の魅力づくりに貢献します。	「図書館へ行こうDAY」、特別開館事業等、各種イベントおよび関連資料展示を実施します	イベント等の実施		→	継続	実施回数	A		参加人数	
					施設の有効活用	→		施設の活用	C		参加者満足度	
											入館者数	
5-4	5-4-1	市場化テストによる効果を検証し、効率的な業務体制をつくります。	官民協働による円滑な運営を行うとともに、モニタリングを実施します	定例会議の実施	次期契約に向けた仕様の検討	→	新規	モニタリングの実施	B	年2回	モニタリング結果	
				モニタリング評価シートの作成				次期仕様書の策定	C		利用者満足度	